

# 腹部エコー



安全で痛みを伴うことがない身体にやさしい検査です。

おなか全体を超音波で観察します。

**Q** 何のために検査をするのですか？

**A** 腹部（みぞおちから、わき腹のあたり、おへそのあたり）に超音波をあて、5つの臓器（肝臓・胆のう・膵臓・脾臓・腎臓）を中心に異常がないかを調べます。

**Q** 検査時間はどのくらいかかりますか？

**A** だいたい20～30分程度かかりますが、内容によっては長くなることもあります。

**Q** 身体への負担はありますか？

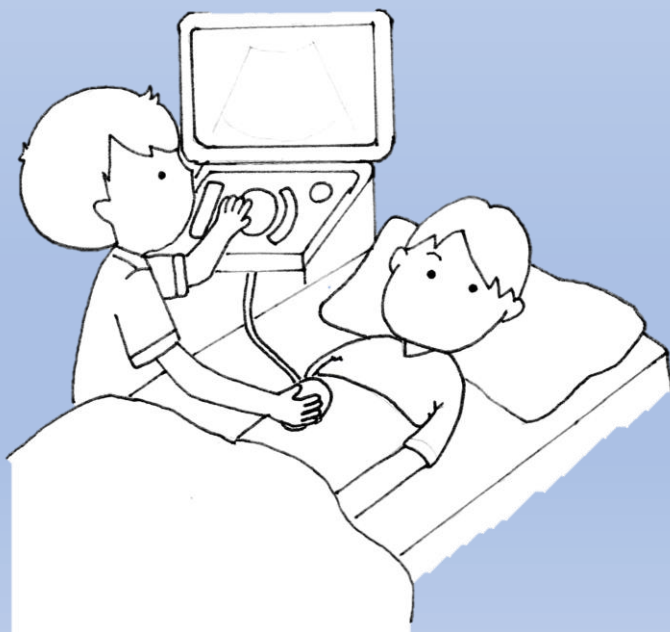
**A** 腹部エコー検査は超音波を使った検査で身体を傷つけず、放射線被曝などの心配もありません。超音波の器具をおなか全体に当てますので、苦痛のある場合は検査中でもお申し出ください。

**Q** 何がわかりますか？

**A** 胆石、ポリープ、のう胞、腫瘍などの限局性病変、脂肪肝、慢性肝炎などのびまん性疾患、各臓器の形態などがわかります。

**Q** どのように検査するのですか？

**A** 腹部エコーでは仰向けで、おなか全体が見えるようにしていただき超音波を出す探触子という器具にエコーゼリーを付けておなかに当てて行きます。いろんな方向から見ますし、息を吸って止めたり、吐いて止めたりしてもらうことも多くあります。おなかにある臓器の大きさや性状についてしっかりと観察します。



# 腹部エコーで見られる所見

## 脂肪肝

肝臓の細胞の中に脂肪がたまった状態で、主な原因は過度の飲酒や肥満です。

## のう胞

のう胞は液体が溜まったもので、無症状、無害、病的意義のないものがほとんどです。肝臓、腎臓に多く発生しますが、膵臓のう胞からは膵炎や種々の腫瘍（良・悪性）が発見されることがあります。

## 血管腫

血管腫は、細い血管が絡み合ったもので、良性の腫瘍です。経過観察が一般的ですが、まれに他の腫瘍と区別できない時は、精密検査が必要です。

## 胆のうポリープ

コレステロールの塊が胆のうにくっついているものがほとんどです。急速に増大するものや、1cmを超えるものはがんや腺腫の可能性ががあります。

## 胆のう結石

症状のないものは経過観察が一般的ですが、痛みを感じる場合は手術が必要です。胆石の他に胆砂、胆泥や胆のう壁肥厚がある時は精密検査が必要です。

## 脾腫

脾臓が通常より大きくなっている状態です。若年者で比較的多く見られます。肝機能検査と血液検査に異常所見があれば精密検査および治療が必要です。

## 腎結石 (尿路結石)

腎臓や尿が通る道にできる結石です。腎臓でできた結石が尿管へ落ちると、激しい痛みがあります。

## 悪性腫瘍

悪性腫瘍が見つかることがあります。